

# 香川

※2026年春実施の全国公立高校入試情報は、2025年12月9日現在によるものです。

## 1.日程

[自己推薦選抜]

○検査・面接等

2/3

○合格者発表

2/10

[一般選抜]

●学力検査

3/10

○適性検査・面接

3/11

○合格者発表

3/19

※追検査 3/14・15

## 2.学力検査

[一般選抜]

国語：50分・50点

数学：50分・50点

英語：50分・50点

理科：50分・50点

社会：50分・50点

<250点満点>

※高松工芸のデザイン科・工芸科・美術科・インテリア科、善通寺第一のデザイン科…美術科等適性検査あり

音楽科…音楽科適性検査あり

(適性検査は第2志望者を含む。)

○英語聞き取りあり(例年)

○国語課題作文あり(例年)

## 3.調査書

[評定の記載方法]

○1年…5段階(絶対評価)

○2年…5段階(絶対評価)

○3年…5段階(絶対評価)

### [調査書点の算出方法]

3年・実技重視(3年の5教科を2倍, 3年の実技4教科を4倍する)

1年: 9教科×5段階=45点

2年: 9教科×5段階=45点

3年: 5教科×5段階×2倍=50点

3年: 4教科×5段階×4倍=80点

<220点満点>

## 4. 合否判定

### [調査書と学力検査の比重]

同等

### [判定方法]

段階相關方式(各5段階)

学力検査点と調査書点をそれぞれ「5段階法による人数配分表」により5段階に分け、相関表を作成。これと調査書の学習の記録以外の記載事項及び面接等を考慮し、総合的に選抜する。

※第2志望者がある場合は、定員を分割して判定。

・大学科内に小学科が1つ…定員の90%を第1志望者から選ぶ。残りの10%は第1志望者と第2志望者を同等に扱って選ぶ。

・大学科内に小学科が2つ以上…定員の60%を第1志望者から選び、残りの30%は、その60%に入らなかった第1志望者とその小学科が属する大学科からの第2志望者を同等に扱って選ぶ。残りの10%は、他の大学科(他の課程を含む)からの第2志望者も加え、第1志望者と第2志望者を同等に扱って選ぶ。

※全国募集の選抜では、はじめから第1志望者と第2志望者を同等に扱って選ぶ。

小豆島中央の特進コースと普通コースは、それぞれ一つの小学科とみなす。

また、くくり募集をする場合は、それらを一つの小学科とみなす。

## 5. 推薦入学等

### ■自己推薦選抜

大多数の高校・学科で実施。

自己PR書を提出。

音楽科は、音楽科適性検査選択課題選択届出書も提出。帰国生徒等は、海外在住状況説明書が必要。

### [検査内容]

面接,《作文, 適性検査, 総合問題, その他のどれか1つ以上》

※総合問題は、国・数・英の3教科・45分。

※適性検査はデザイン科, 工芸科, 美術科の芸術系学科と音楽科で実施。

※その他では、R8年度では、自己PRと質問を行う。

### [定員に対する比率]

○普通科, 理数科, 文理科…5~30%以内

○音楽科, 美術科…50%以内

○その他の学科…30~50%以内

## 6. 備考

県立高の普通科・理数科の通学区域は、第1・第2学区の2学区制。それ以外の学科は、県下一円。また、高松第一の普通科は通学区域が決まっているが、音楽科は県下全域。一般選抜で、全員に面接を実施。

同一校内に2つ以上の小学科がある場合(くくり募集をする場合はそれらを一つの小学科とみなし、小豆島中央の特進・普通科コースはそれぞれ1つの小学科とみなす)は、第2志望を出願できる。

三本松・観音寺第一の普通科と理数科、農業経営の全科は、くくり募集を行う。

※音楽科では音楽科適性検査選択課題選択届出書を提出。

※帰国生徒等は、海外在住状況説明書が必要。

※ほとんどの高校・学科で、求める生徒像を公表して全国から生徒募集をする。合格者数の上限は、募集定員枠外として、各科、自己推薦・一般選抜を合わせて1~12人。

※追検査等

やむを得ない理由で学力検査等を欠席した者のうち、その理由が正当と認められた者に対して追検査(追学力検査、追適性検査、追面接のすべてまたはいずれか)を実施する。ただし、追学力検査は、5教科すべての学力検査を欠席した者について行う。

[通学区域]

小豆島中央を除いて、普通科と理数科、高松第一の普通科には、定められた通学区域がある。